

武汉大学留学



m131071 鈴木丈夫

- ・ 武漢市について

武漢市は中華人民共和国の中央に位置する湖北省の省都です。面積は 8500 km² と市であるにもかかわらず広島県よりも少し大きいです。人口も 1000 万人を超えていて中国の中でも大都市のひとつとして有名な都市です。武漢市には世界第三位の長さを誇る長江が流れており、長江とその支流により武漢、漢陽そして漢口の三つに区分されています。それらはそれぞれが長江大橋を代表とする橋によりつながっています。

- ・ 武漢大学について



湖北省武漢市に位置する総合大学で、中国で最も歴史がある国家重点大学のひとつです。科学、技術工学、農業、医学、文学、歴史、哲学、法律、経済学、教育学、経営学などをはじめとする 30 の学部があり、多くの著名な革命家、政治家、軍事家、科学者、文学家を輩出しています。



キャンパスはメインキャンパスと医学部キャンパスに分けられていてメインキャンパスには桜の樹がたくさん植えてあり三月二週目ごろから多くの観光客が訪れ混雑しています。それだけでなく多くの歴史的建造物がありすべて見ようとすると二日はかかるほど大きいです。それに比べ医学部キャンパスはメインキャンパスに比べるとかなり小さいです。小さいと言っても福島県立医科大学よりは大きく日本人からしたら十分大きいキャンパスに入ると思います。



・解剖

自分は武漢大学医学部基礎医学の解剖学講座に配属になりました。解剖学講座は医学部キャンパスにある第七研究棟の10階にあります。普段はエレベーターがあるので簡単に上がることができますが時々それが止まってしまうため階段で上まで上がらなくてはいけないのが大変でした。解剖は系統解剖学と局所解剖学に分かれていて両方の先生を合わせると30人~40人の先生がいらっしゃいます。月に一度会議をするときには椅子に座れないくらいの方が一つの講座に集合します。いつも講座にいる先生は大体3~4人くらいなのでこんなにいたんだと驚いたほどでした。解剖学講座には毎年福島県立医科大から留学生が配属されているため、先生方が日本人に対して慣れている感じがしました。ただ去年までいらした Dai 先生が今年退職されて日本語が全く通じない環境になってしまったのが残念でした。Dai 先生の代わりに留学生の担当をしてくださったのが福島県立医科大学に留学されたこと



がある田先生でした。田先生もやさしい先生で「なんでもしたいことはしていいよ。」とおっしゃってください、滞在中割と自由に行動することができました。ほかの先生方も日本語は通じないが英語を話せる方が多く、自分たちが理解できないことも何とか伝えようと努力してくださる良い先生ばかりでした。講座内の雰囲気も良く講座内の通路のところでは先生が時間があるときは談笑したり、おやつを何人かで食べていたり仲の良さが伝わってくるほどでした。

・授業

今回の留学では解剖学講座の留学生クラスの授業を受けることができました。武漢大学医学部では中国人のみからなるクラスと留学生クラスに分けられてお

り、留学生クラスは主にインド人が大半を占め一部タイ、マレーシア、ロシア人が数人所属しています。解剖は日本と同様に医学部二年生で学習します。講義内容は人体解剖学と系統解剖学にわけられていて、自分は主に人体解剖学の実習の授業に参加し留学生たちと一緒に実習を行いました。授業の流れとしては一コマ45分で午前中に5コマ、午後に5コマと合計10コマの授業が日曜日以外あり、昼休みは二時間くらいあるもののコマ間の休み時間が五分しかなく講義室の移動がある際には多くの学生が走って移動している姿を見ることができました。解剖実習は午前中に4コマつかって行き、1コマ目と2コマ目の半分くらいまではその日にやる実習内容をスライドを用いて説明し、残りの3, 4コマ目で実習をするという形でした。自分たちは二年次に解剖学を学習しているため今回の解剖の授業中は学生たちに教えてくれと先生に言われていたがすでに解剖の知識が抜けてきているため日本語でさえ難しいことを英語では到底無理だと思い、講義だけでなく寮でも解剖の本を読みなんとか聞かれたことには答えるようにしていました。留学生たちの実習に取り組む態度は非常にまじめで一つ一つの作業を丁寧に確認しながらきれいに行っていたと思います。ときには休み時間もわすれて休憩せずに解剖していたのが印象的でした。ただ朝が弱い学生がいるのは世界共通のようで1コマ目の途中や2コマ目から来る学生もちらほらいました。系統解剖の授業も1回受け、こちらは2コマしかないが同じように1コマは説明もう1コマは実物を触れての授業という形でした。人体解剖学と系統解剖学は受ける学年が異なるようで系統解剖学を受けているクラスにはまじめで頭の良い学生が多いように感じました。先生が質問するとすぐに答え、授業が終わっても先生にずっと質問していてすごいなと感じました。

解剖学の講義以外にも免疫学の中国人学生のクラス、生理学の留学生クラス、留学生クラスの臨床医学の講義を受けることができました。まず免疫学の中国人クラスでは当然のように授業が中国語でおこなわれ、なにを言っているのか全く理解することができませんでした。ただスライド上に書いてある漢字から何を説明しているのかは雰囲気理解することができたのが救いでした。中国人学生の授業態度は非常に真面目でした。遅刻する人もいなく授業中に携帯、パソコンでなにかしているような人は見かけませんでした。中国の受験戦争を戦ってきた人たちは日本の学生とは違うなと感じました。次に生理学の留学生クラスを受けてみて、今回は神経生理学の講義を見学することができました。講義内容としては大体が日本でやっている内容と同じであったが一つだけ神経シグナルの伝達について日本では聞いたことのない内容が含まれていてほんとなんか感じたことを覚えています。学生の授業態度については、留学生クラスはクラスによってそれぞれの違いがありこの授業を受けているクラスは特にイ

インド人の行動が気になることがありました。授業中にテレビ電話したりご飯を食べたり、インド人特有のラッパのような着信音がしたり、たばこを吸いに教室から出たりと非常に不真面目だったと思います。みんながみんな不真面目というわけではなく、一番前の席に座って講義を受けている学生は真面目で安心しました。留学生の臨床医学講義では CPR の内容の実習に参加することができました。実習は二クラスに分かれ一人の先生が二つのクラスに教えるという形でした。CPR で使う人形は日本と同じものをつかっていて AED も中国語だが全く同じでした。CPR の手順は中国と日本ではなにか違いはあるのか疑問でしたが一通り説明を聞き手本を見学したがほとんど同じで世界共通なんだとわかりました。

生活

中国での生活は中国に行く前までは正直なところ水、食べ物、寮などに対して不安しかありませんでした。しかし、武漢に来てみると交通機関は整備されているし、部屋もきれいだっただけでなんとかなりそうだなと一安心しました。寮はエアコン、冷蔵庫、洗濯機があるためそれなりに生活することができました。ただ wifi がちょっとではないくらい使えないのでポケット wifi、中国 SIM などをレンタル又は購入したほうが QOL の向上につながると思います。水道や電気は基本的に問題はありませんでしたが一度だけ 2 日間の断水と 30 分くらいの停電を経験しました。寮母さんたちは英語が通じないのでどうやって伝えればいいのかわからないことがあったので指さし単語帳などを持って行ったほうが良いと思いました。講座や先生たちとの会話では英語を使うことができるので話を理解してもらえますが、購買のおばちゃんやお店のおじちゃんには通じずバナナ一本買いたいところ一房買ってしまったりとなかなか大変なことが多かったです。一番難易度が高いのは中国のレストランでの注文で漢字はわかるけどなんの料理で一皿どのくらいの量なのか聞くことが大変でした。絵をかいたり、



ジェスチャーをつかってなんとか伝わるといった感じでした。中国での基本的な移動手段はバスと地下鉄です。バスは 1 元、1.6 元と 2 元といろいろあるがとりあえず 2 元出せばすべて乗れるのですべて 2 元出してという感じでした。中国のバスは日本とは違い運転がものすごく荒いです。お客さんが乗り込もうとしているのに走り始めたり、

急ブレーキ、割り込みなど平気でします。最初に乗ったときは終始力んでいないと転んでしまいそうでした。慣れてくるとこれはこれでアトラクションみたいな感じで楽しくなってきます。地下鉄ですが武漢市の地下鉄はここ10年で急速に整備されたらしくとてもきれいで行きたいところすべてに行くことができます。料金は距離によって2~5元程度で乗ることができます。発券機で切符を買うとコインが出てきてこれがSuicaみたいに使える優れもので乗るときはタッチして、降りるときはコインを入れられるだけなのでとても簡単に地下鉄に利用することができます。地下鉄はセキュリティーがしっかりしていて乗る前は必ず荷物をX線の機械に通さなくてははいけません。これがあるのでバスよりも安心して乗れました。ただ混雑しているときには時間がかかるので行列ができてしまい待ち時間が長くなってしまいうこともあります。電車内もきれいだしバスに比べ利用者のマナーが良いので乗っていても気になることが少ないので僕たちは基本的には地下鉄を利用していました。中国の道路はいつも混雑していて車はなかなか動かないので移動する際は地下鉄に乗れば間違いないと思います。移動関係で気を付けなくてはいけないことは中国の信号は赤でも車は自由に右折できるということだと思います。横断歩道を歩いていようがお構いなしに突っ込んできます。横断歩道を渡るときは地元の人々の後を追いかけていったほうがいいでしょう。渡るときは一定の速度で渡ることをお勧めします。走ったり、止まったりするとぶつかるので。

食事

食事について書いていきたいと思います。中国の料理はとにかく安い。一食が大体5~10元でおなか一杯になるほど食べることができる。二週目くらいから金銭感覚がおかしくなり20元(320円)以上はもう高級品扱いでなかなか手を出せなくなってしまいました。料理自体はおいしいと思います。武漢の料理は





中国内でも辛いらしく中国人が頭おかしいよというくらい辛いのでそういうものを食べる時は整腸剤を飲んでからチャレンジしてください。大学の周りにもいろいろな料理店があるので時間があるときは行ってみるのもいいと思います。中国のおいしくて安い店の見分け方は混んでるかどうかです。高い、おいしくないお店にはなかなか地元の人が入っていきませ

店に入ったほうが良店である可能性が高いと思います。僕たちは最初の一週間は大学の食堂でご飯を食べていました。食堂のご飯は安くてはやいです。8元で



大盛りのご飯とおかずが4つついてきます。油っこいのが残念ですが食費を浮かせたい場合はここで食べるのがベストだと思います。一週目以降は食堂から離れ医学部キャンパスの裏手にあるお店に通うようになりました。このお店はいつも混んでいてなかなか座れないですがめっちゃめっちゃおいしいです。全部おいしいのですが中でも鴨腿炒飯、鴨腿炒面は格別においしいです。

留学中にかなり行ったので店員さんもまた来たなみたいな感じで接してくれます。店員さんがすごくやさしい人で漢字の読み方を教えてくれたり読み方が間違っているけども理解してくれるのでとても行きやすいお店でした。このお店の次に通ったのが武漢大学のメインキャンパスにあるお店のケバブ井みみたいなものでした。医学部キャンパスとメインキャンパスが1.5~2 kmほど離れているので歩いていかないといけないですがその距離を往復するだけの価値があります。メインキャンパスに入りピザ屋のところを左に曲がり500mくらい進んだところにカフェやパン屋などのお店が並んでいる通りがあり、その中にこのケバブ屋さんがあります。お肉と野菜を切り刻んだだけなのですがなぜかうまい。10元でこんなにおいしいのが食べれるなんて中国最高だなと思いました。武漢に留学する際はぜひぜひ行ってみてください。

買い物

メインキャンパスには超市というスーパーや多くの商店があるため朝 6 時から夜の 11 時くらいまではなんでも買うことができます。時間に関しては日によって違うので正規の営業時間はわかりません。私たちが滞在していた医学部キャンパスの方には体育館の入り口につながる階段下に購買が数件あります。この購買だけではなく解剖学講座がある第七棟の前には 7TT という便利店（コンビニ）があります。購買のほうがコンビニよりも 1 元安いことが多いため普段は購買の方を主に利用していました。購買は一人又は二人の店員さんがいて買いたいものを渡せば電卓を使って値段を教えてくれるため買い物がしやすいです。日本の大学には珍しいと思います。タバコだったりビールなども購買で買うことができます。購買ではカップ麺やお菓子は安心して買うことができますが、パンはよく見てから買うようにしてください。レーズンパンかなと思ってよく見たらカビが生えていたり中国らしさがみえるので注意して買ってください。それを除けば店員さんも親切でやさしい人が多いし、商品も安いので買い物は購買でするのがおすすめです。そんな感じなので、ほぼ毎日のように買い物していたら店員さんと親戚のおばちゃんみたいな感じに仲良くなりました。言葉は通じませんが筆談であったり中国人の学生が通訳してくれて会話することができました。最終日にはお土産までくれて本当に良い人だったなと思いました。次にコンビニについて紹介していきます。先ほど書いたようにコンビニは解剖学棟の近くにあるため、解剖講座にいておなかが減ったり、朝食を買って講座に行くときは大変便利です。コンビニでは武漢の B 級グルメである熱干面を食べることができます。学食でも食べることはできるのですが、コンビニの熱干面のほうがおいしいです。5 元（約 80 円）で食べることができるし、出てくるまでが早いのでとてもおすすめです。食べ物だけでなく充電器や洗剤、スリッパなど生活するのに必要なものはそろっているので何か持っていくのを忘れたときはコンビニで買うことができると思うので心配しなくても大丈夫だと思います。購買、コンビニの注意点として私たちは中国人の友達に 24 時間開いているからいつ行っても大丈夫だよといわれたのですがそんなことはなくコンビニは 10 時くらいには閉まり、購買は 10 時半に閉まってしまいます。中国のお店はホワイトなところが多いのだなと思いました。夜中に何か食べたいな、飲みたいなと思ったときはちょっと歩きますが漢街通りにある today というコンビニに行けばここは 24 時間営業なので買うことができます。武漢市は治安がいいので夜でも安心していけるとおもいます。

病院実習

武漢大学には第一病院の人民病院、第二病院の中南病院の二つの大学病院が



れ先生方でさえも車を止めることができないそうです。病院に入る前にすぐに日本との違いが分かりました。中国では多くの人が病院の玄関のところでタバコを吸っていて吸い殻が散らばっていました。そして玄関が扉ではなくカーテン



テンみたいな感じなのでタバコの煙が病院内に入ってくるのですごく臭かったです。苦手な人はマスクをして病院に行ったほうがいいです。そしてホールにはエレベーターに乗るためにディズニーランドのような行列ができていました。整形外科や消化器といった毎日混むような診療科がなぜか棟の 10 階以上にあるため非常に不便でした。自分たちは、留学一週目に生理学の先生のおかげでさっそく中南病院の神経内科を見学することができました。神経内科ではまず Fu 先生について中国の病院ではど



のように患者さんを診察しているのかを見学することができました。中国では患者さんが多いため診療室がなく廊下や先生の休憩室、またはもし異常があった場合に入院することになる病室内で診察が行われていました。患者さんは先生に言われ第5棟にあるX線中心というところでレントゲンやMRIなどを撮

影しそれをもって病棟に戻ってきて先生に見せます。それを見て異常があった際は病室で歩いてもらったりして診察をしていました。見学していて本当にこれでいいのかなと心配になりました。そのあとは病室を回り、難病の患者さんや一般的な病気だけでも珍しい症状が出てしまった患者さんの説明をしてくださいました。どの病室に行っても患者さんや患者さんの家族が先生がすることも大切なのだなと感じました。次の週の水曜日にも神経内科を見学させていただきこの時は DSA を見学しました。今回は福島県立医科大学に留学経験のある劉先生説明していただきました。脳動脈瘤や内頸動脈閉塞などの症例を見学することができ、良い経験ができたと思います。先生方は午前中だけで 4 件の検査があり大変そうでした。不安な点として医療者は衛生的な服装に着替えて検査室に入るのですが DSA の検査室は患者さんの家族が出入りできるような環境にあり家族の方が私服、下足で検査室に入ってきたのにはさすがに衛生的に大丈夫なのかなと思うようなところもありました。三週目には人民病院の整形外科を見学しに行きました。整形外科では名古屋で七年間勉強していた Hu 先生と



福島県立医科大学に留学経験のある Hu 先生に説明していただきながら病棟についてや手術などの見学をしました。名古屋で勉強していたほうの Hu 先生は日本語がペラペラですべて日本語で会話できたのですごく楽でした。病棟では主に骨腫瘍の症例について

見学し、ケアをどのようにしていくのかなど聞くことができました。中国では日本と違い予約制度などが無いいため患者さんの数をコントロールすることができず本当なら時間をかけて治療していかなくてはならない患者さんでも次々くる患者さんの対応をするためには完治ではなく現状維持の治療を選ばざる負えないことが残念だと現在の中国の医療体制を説明してくださいました。病室は患者さんでいっぱいになり廊下や病棟と病棟をつなぐ渡り廊下にまでベットをおいて入院させているのを見て非常に驚きました。中南病院には 3300 床のベットがあるはずなのにそれでも足りないなんて中国の人口、医療制度などの問題を感じることができました。オペ室見学では脊柱管狭窄症のオペを見学することができました。オペ室は 20 室近く円状に並んでいてそのすべてでオペが行われているのを見てびっくりしました。ここでは患者さんの家族がオペ室に入ることはないのですがロッカーで先生方が喫煙していたりオペ室の前に家族の方が入ってきたりとここでも衛生面で問題があるなと感じました。最後に人民病

院の泌尿器科の見学に行きました。小島先生が中国にいらっしゃった際に連絡先を教えてくださいました宋先生に連れて行ってもらい一日病院にいて合計七件の手術を見学することができました。泌尿器では腹腔鏡のオペが主流でした。宋先生は指導者としてオペ中に若手の指導をしていて僕たちはまだ病院実習に出ていないので若手の人の手術を見てもすごいなと思っていたのですが宋先生が変わるとスピードが急に速くなって驚きました。湖北省には現時点で二台のダヴィンチがありますが武漢大学病院にはまだないためできるならば早くダヴィンチを導入したいとおっしゃっていてそれがあある福島県立医科大学で実習できることがありがたく感じました。中国に行く前は武漢大学では解剖学講座でしかできないのだろうなと思っていましたが、実際に行ってみると先生方がサポートしてくれるので病院実習がしたいと思ったときは先生に相談すればすぐに行けるので相談してみてください。実習に行くときの注意点として病院に行くとは大体丸一日は病院にいることになるため講座に顔を出せず生きているのか確認のメールが来るので実習に行く際は実習に行ってくださいと講座の先生に連絡を入れたほうが良いと思います。

観光



武漢市の観光した場所、良かったところなどを紹介します。武漢には李白が詠んだ「黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之を送る」という句に出てくる黄鹤楼があります。黄鹤楼は中国国内においても観光の名所らしく中国人の周君と観光で訪れたときも多くの観光客でにぎわっていました。黄鹤楼周辺は大きな庭園のように整備されていてすべて回ろうとしたら丸一日はかかると思います。今回はその他の場所にも回らなくてはいけなかったのもつまずく黄鹤楼を目指しました。楼の手間のところはお土産屋さんならんでいて黄鹤楼にちなんだものが並んでいました。お店などを軽く見ながら

歩きチケットを買い中に入りました。中国では学生証を見せると半額近くチケット代が安くなるので学生証を持って行ったほうがいいです。中に入り黄鹤楼の下までくるとその大きさに驚きました。楼の中は中国の壁画やつぼが飾ってあり中国文化を味わうことができました。階段を上り最上階まで上がると武漢の町並みを見ることができました。近くに流れる長江やそれにかかる長江大橋などとても良い景色でした。残念なことに空気が汚いので長江の対岸のビルなどは見えません。

次に長江大橋について紹介します。長江大橋は長江にかかる橋の中で一番古い橋で約 60 年前に建設されたそうです。中国風の橋ではなく欧米諸国の影響を受けたようなデザインでした。長さは 1670m ありゆっくり歩いて渡ったら一時間かかりました。長江の水は茶色で日本の氾濫した川のような色でした。その川を海でよく見るタンカーが航行していてでかい川だなと感じました。



次に宝通寺についてです。宝通寺は中国の中でも古く歴史のあるお寺です。武漢の中では最古のお寺だそうです。昔から皇室の寺院として使われて来たために中国のそれぞれの王朝時代の文化が残っていました。

武漢市以外にも観光することができて武漢大学の学生と一緒に上海に旅行して来ました。上海の市内は東京のようにビルが立ち並んでいて中国と

は思えないほど都会でした。武漢市は夜になると店も閉まり静かになりますが上海は夜の方がビルがライトアップされたりクラブの客引きだったり賑やかでした。上海は地下鉄に乗ることさえできればほぼ全ての観光スポットに行くことができるのでとても楽に観光できます。二泊三日の短期でしたがそれでも上海の主な観光スポットは回ることでその中のいくつかを紹介しま



す。まず上海といえば外灘で見ることができる夜景だと思います。外灘には多くの観光客が集まり対岸の景色の写真を撮っていました。初日にいった時は雨が降っていて雨雲がメインのタワーの上半分を覆っていたので残念でしたが二日目の夜は雨が止んで雲も切れていたの綺麗な景色を見ることができました。ここは対岸の景色だけではなく銀行や百貨

店などのビルが欧米のような建築様式になっているため中国にいるはずなのにヨーロッパにいるような感じがしました。外灘の近くにある南京東路は上海市の中でも一番賑やかな通りらしくたくさんのお土産やさんが並んでいました。お土産は外灘に近づくほど高くなるので南京東路で買う方が安く買えると思



ていたりで軽食が買えたりとずっとみて周っても飽きませんでした。日本人の観光客が多いためかお店の人も簡単な日本語を話せてしかもグイグイくるので心が弱いと買ってしまいそうになりますがちょっと離れば安く売っているところもあるので色々見てから買い物はした方がいいです。あと偽物のブランド



品を売っているお店があるのですがその客引きのおばちゃんたちは日本人とわかるとストーカーみたいについてくるので全て無視して違うお店に入ったり走って逃げたりするのが良いと思います。豫園の庭園を見る前にその周辺が庭園みたいになっているので正直入場料を払ってまで中を見なくても良いと思いますが、中には物乞いの人や客引きのおばちゃん

もいないので静かでゆっくりと散歩することができるので悪くありません。昼間に行くのも綺麗ですが、夜に行くと全ての建物がライトアップされていてとても綺麗でした。豫園に行く時は是非両方とも楽しんでもらいたいです。あと豫園にいった際には南翔饅頭店の小籠包は是非食べてください。15元(250円)



ます。

次は豫園について紹介します。豫園とは明代のもので当時の四川省庁が作ったとされる庭園です。地下鉄の10番線で豫園駅で降りれば行くことができます。豫園周辺は明または清代の建築様式の建物が永遠と並んでいてその光景は圧巻でした。そのような歴史的な建築物の一階はお土産を売っ

たりと偽物のブランド品を売っているお店があるのですがその客引きのおばちゃんたちは日本人とわかるとストーカーみたいについてくるので全て無視して違うお店に入ったり走って逃げたりするのが良いと思います。豫園の庭園を見る前にその周辺が庭園みたいになっているので正直入場料を払ってまで中を見なくても良いと思いますが、中には物乞いの人や客引きのおばちゃん

もいないので静かでゆっくりと散歩することができるので悪くありません。昼間に行くのも綺麗ですが、夜に行くと全ての建物がライトアップされていてとても綺麗でした。豫園に行く時は是非両方とも楽しんでもらいたいです。あと豫園にいった際には南翔饅頭店の小籠包は是非食べてください。15元(250円)

くらいで美味しい小籠包がお腹いっぱい食べられます。次は田子坊について紹介していきます。田子坊は10番線から2番線に乗り継がないといけないので行くまでがちょっと大変ですが東京に比べたら全然楽に行くことができます。田子坊とは簡単に言えば雑貨店が集まる地区のことでお茶、チャイナ服、陶器

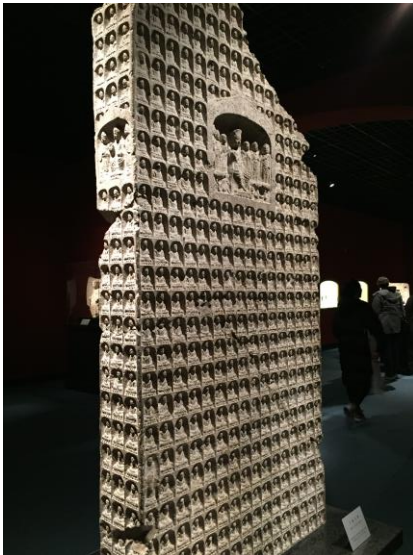
もいないので静かでゆっくりと散歩することができるので悪くありません。昼間に行くのも綺麗ですが、夜に行くと全ての建物がライトアップされていてとても綺麗でした。豫園に行く時は是非両方とも楽しんでもらいたいです。あと豫園にいった際には南翔饅頭店の小籠包は是非食べてください。15元(250円)

くらいで美味しい小籠包がお腹いっぱい食べられます。

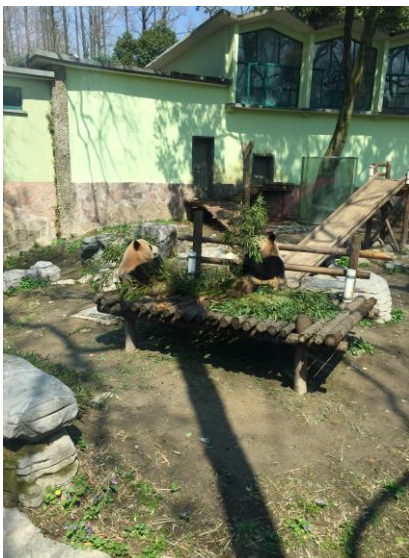
次は田子坊について紹介していきます。田子坊は10番線から2番線に乗り継がないといけないので行くまでがちょっと大変ですが東京に比べたら全然楽に行くことができます。田子坊とは簡単に言えば雑貨店が集まる地区のことでお茶、チャイナ服、陶器



などのお店がたくさん並んでいます。お店の建物も綺麗で地面も石畳なのでおしゃれな感じでした。ここも割と有名な観光地のためかほとんどのお店の人が英語、日本語を話すことができます。値段はちょっと高めの設定ですが安くしてというと半額くらいまで安くしてくれます。中国のお土産で定番なのはお茶ですがここでは日本語ペラペラな人がお茶の説明をしてくれて、こういうお茶が欲しいというとそれにあったお茶を出してくれるので好きなものが買えて結構オススメのエリアです。



次に上海博物館について紹介します。上海博物館には10番線の人民広場駅で降りて少し歩けば行くことができます。上海博物館は人民広場に隣接して公園の中にあるような感じですが、中国の博物館は基本的に無料で写真撮影もフラッシュを使わなければ自由にできます。入場するときバックの中などチェックがありますが金属探知機が反応しても入場できるのであってないようなものです。この博物館は4階建てでそれぞれの階に四つの展示コーナーがあるのでゆっくり見ると1日では足りないと思います。なので一階のパンフレット国語と英語しかありませんが翻訳の機械を借りれば日本語で説明を聞くことができます。博覧会ができるので中国語、英語に疲れた時は博物館に行って日本人の観光客とおしゃべりするの良かったです。



次に上海動物園について紹介します。上海動物園は高速鉄道乗り場がある上海虹橋駅や上海空港の近くにあるので列車や飛行機など心配で遠出できないときに行くの良いと思います。上海の観光おすすめを調べてもこの動物園はあまり出てこないので行かなくてもいいかと思っていましたが、実際に行くととても大きく思っていた以上の動物がいてとても楽しかったです。入り口のところは寂しい雰囲気ですがパンダの近く

に行くとはパンダだけお土産があったり食事するところがあったりとパンダ推しなのが一目瞭然でした。大人の入場料は 40 元なのですが学生証を見せれば 20 元まで安くなるので料金的にも行って損はないと思いました。白鳥や多くの鳥類が放し飼いになっていて動物園の外とかにも飛んで行っていたのでこれはどうなっているのかととても不思議でした。そのうち鳥が全ていなくなってしまうそうでした。

次は上海の料理について紹介します。上海料理といえば上海面、上海蟹などですが上海面は上海で食べる面の大体がそれなので行けば食べれるという感じでした。味的には武漢の熱感面の方が美味しい気がします。上海蟹は季節があるようで自分たちが行ったときにはメニューになく食べることができませんでした。なのでそれ以外の角煮や平麺、アワビなど日本では高級品で手が出せないようなものもお手頃価格で食べることができました。味は武漢が激辛なのに対して辛くなく日本人にあった味付けで美味しかったです。



味は武漢が激辛なのに対して辛くなく日本人にあった味付けで美味しかったです。

今回の留学では上海と武漢の発展した街と発展中の街を見ることができて良かったと思います。上海に比べ武漢は古い建物が多く道も汚いところが多いですがそれはそれで中国らしさを感じることができたと思うので良い経験だったなと思います。

交流



留学中に多くの人たちと交流し仲良くなることができたと思います。中国の人たちは日本嫌いな人が多いのではないかと不安に思ったこともありましたが僕たちが接した人たちはみんな日本好きでとても優しい人たちでした。そして中国人は我が強いと思われがちですが実際に接して見るとそんなことはなく、みんな気を使ってくれたり親切に道を教えてくれたりと人間性的には

日本人とあまり変わらないような気がしました。人民病院の近くにあるお茶屋さんではおばちゃんと仲良くなり色々なお茶を試飲させてくれました。別の日にもう一度お邪魔したときには奥からおじちゃんが出て来てまゝ座れと言われ



一時間以上学生なの？とかどこからきたの？といったおしゃべりをしました。英語が通じないことがほとんどなので中国語を勉強していった方が色々話することができるのもっと楽しかったのだろうとちょっと後悔しました。医学部の学生たちとの交流では日本と中国の医学部の制度や教育内容について色々話をしまし

た。中国では5年制と8年制があり優秀な学生や研究者を目指す人が8年制を選択することが多いと教えてくれました。また医師の給料についても中国の場合月5万円程度しかもらえないそうで病院見学に行ったときにあんなに忙しそうに働いていたのにこれしかもらえないのかと驚きました。中国の場合副教授や教授などの上のポストにつくとそれまでの何倍と給料が上がるのでそれを目標に頑張るしかない

と学生が話していたのが印象的でした。



中国人の学生以外にも留学生クラスのインド人やマレーシア人、タイ人、イギで何を行っているのか理解するまでに時間がかかります。何を行っているかわからないときはわからないと言えばゆっくり話してくれるのでそう伝えれば大丈夫です。留学中に多くの人たちが親切にしてくれましたが特にタイ人のミントさんはとてもよくしてくれました。武漢周辺の公園に連れて行ってくれたり大学裏の美味しいお店を教えてくれたりしてくれて留学中本当にありがたかったです。

まとめ

一ヶ月間という短期間の留学でしたが中国という異国の地での一ヶ月は自分にとってとても重要で大切なものとなりました。中国でできた友達やお世話になった先生方など新しいつながりを作ることでもでき、留学に行くことができてよかったなと思いました。中国人の勉強に対する熱心さを真似してこれからの勉学に努めていけたら良いなと思います。最後になりますが中国留学の機会を与えてくださった先生方、準備を全部してくださった國分さんにはお世話になり

ました。本当にありがとうございました。この経験を今後の人生に活かして頑張
っていきたいと思います。